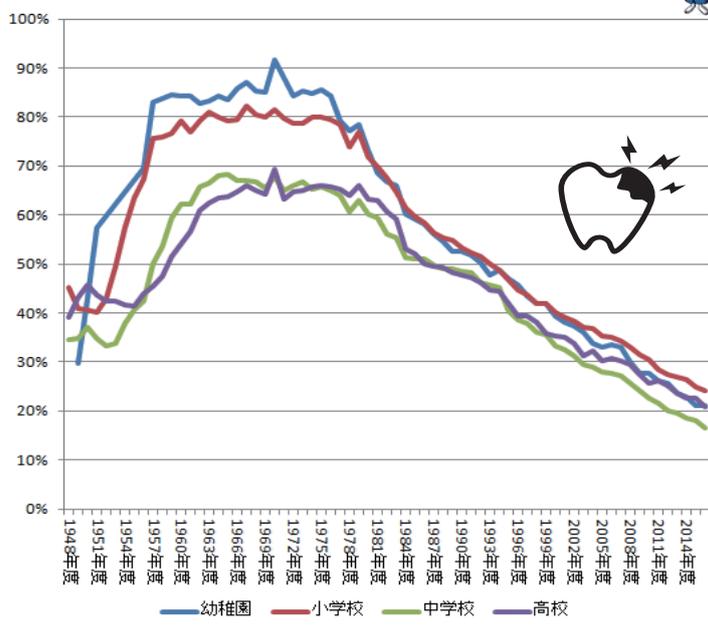


こんにちは、堀内歯科院長の堀内です。  
さて、今号の新聞のお題は、日本の**子供の虫歯**についてです。  
もうすぐ、学校健診が始まりますので、みなさんと**虫歯**について考えてみましょう。

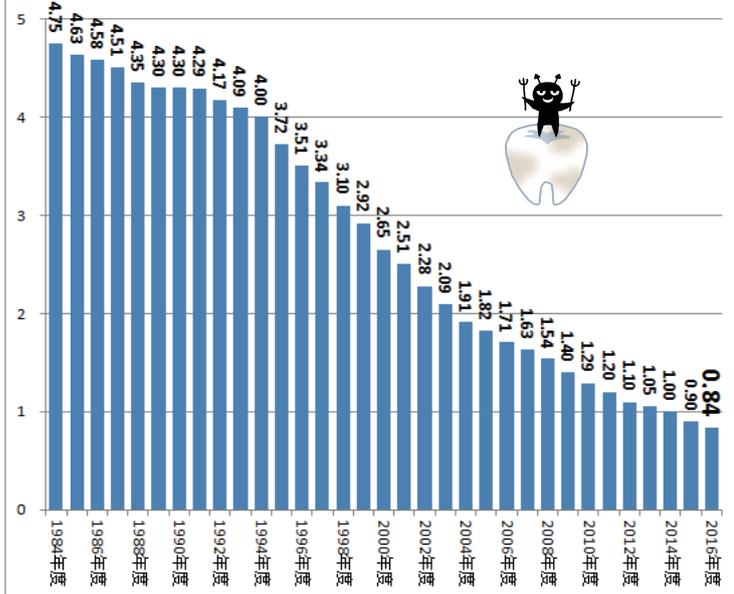


右の図は、1948年から調査が始まった虫歯があるものの割合を示しています。1960年～1970年代が一番虫歯が多かったようです。幼稚園児に至っては、ほぼ9割の子供が虫歯を保有していたことになります。今から考えるととんでもない数字ですね。西洋化の波の中で虫歯が激増していった時代だそうです。他方、グラフの中で一番最近の2014年のデータでは、すべて25%以内に収まっています。中学生に至っては、20%を切っています。5人に一人しか虫歯がないということになります。

むし歯の者(未処置歯のある人)の割合推移



12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数 (処置歯と未処置歯、喪失歯の合計数)



左のグラフは、永久歯が生えそろう年齢の12歳のお子さんの一人当たりの虫歯の本数です。2016年のデータからは、一人1本以下ということになるわけです。この傾向は今後さらに進むでしょうね。全国的に「**虫歯は予防できる**」という概念が広まってきているのは確かです。虫歯は確実に減っています。ただ、一方で一部のお子さんだけが多くの虫歯を保有しているという傾向はなくなりません。

当然の話ですが、治療することで虫歯が再発しなくなるわけではなく、強くなるわけでもありません。虫歯を作ること、虫歯を放置することは、いわば命を擦り減らすこととも言えますよね。虫歯のない子供を世に送り出すこと、虫歯にならないように自分の歯をしっかりと管理することのできるお子さんを世に送り出すことは、今の大人の世代の大切な役割とも言えますよね。この表をみなさんで見てください、ご家族での虫歯予防についてももう一度考えてみてくださいね。